

2019年度

茨城キリスト教学園高等学校自己評価表

目指す学校像	本校は、キリスト教教育による豊かな人間性の涵養と教育基本法等の精神を踏まえ、教育目標達成に努力する学校である。	
	本校の教育目標は、「心豊かで、実力のある、自立した国際人の育成」である。	
	1) 自己の確立(人間の尊厳性)	自らを深く見つめ、謙遜に真理を探究し、神の前に真実に生きる人間を育てる。
	2) 人間関係の育成(隣人愛の育成)	世界に目を向け、他者に向かって開かれた心を養い、隣人を愛する人間を育てる。
	3) 個性の伸長(自己実現)	自分に与えられている能力を伸ばし、品性を養い、進んで人類の福祉と世界の平和に貢献する人間を育てる。
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標
本校の3本の柱を中心に生徒・保護者・教職員の共通理解の下で、種々の教育活動を実践し一定の成果を年々積み重ねてきたが、なお一層、一人ひとりの生徒を大事にし、きめ細かな計画・立案・実施・点検が必要である。	1.キリスト教教育による豊かな人間教育	① 礼拝、宗教行事等の活動を通して豊かな人間性と情操の陶冶を図る。 ② 宗教行事に積極的に取り組む姿勢を養うとともに、礼拝を通して敬虔な態度を身につけさせる。 ③ キリスト教教育を中核とする宗教部・生徒指導部・教育相談部など関係分掌の連携による教育体制を築く。 ④ 聖書・礼拝を通して生きる意味や目的を学び、真実に生きる生徒を育成する。
	2.英語教育と国際教育の強化	① 国際教育を積極的に展開し、国際理解を深めるとともに、その基盤でもある英語教育の強化と実践に努める。 ② 英語・国際教育の充実と全校への拡大に努める。(諸留学制度、海外語学研修、海外研修旅行) ③ 世界の一員であることを認識し、自国および他国を愛し、人類の福祉と世界の平和を希求する生徒を育成する。 ④ 米国人教師による英会話教育の充実と強化に努める。
	3.学力の向上と進路指導の充実	① 希望した進路の自己実現ができる生徒を育成する。そのために、希望進路の実現をあらゆる面から支援する体制を確立する。 ② 自己の長所・興味・関心・使命感に気付かせ、個性の伸長をはかる。自ら考え、自主的に調べて学ぶ生徒の育成について研究・推進する。 ③ 読書を奨励し、小論文に早期に取り組ませる。 ④ 21世紀型研究開発的教育の前進に努める。教職員の専門性向上をはかり、思索的創造的人材育成を可能にするノウハウを高める。

判定基準 5:十分適正である 4:適正である 3:概ね適正である 2:やや適正に欠ける 1:適正でない

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価	次年度の課題
聖書	超越的存在と出会い、聖書の学びを通じて神が一人一人に与えておられる賜物(才能)を発見させる。そのことにおいて自己を見つめ直し、愛のこぼれと行為をもって他者に仕える人間へと成長することを目指す。	1.キリスト教の基礎知識をキリスト教の歴史を通じて学ぶ。		
		2.思春期における自己との葛藤のなかで、自己理解、他者理解を、聖書が語る超越的存在である神との関わりの中で深めていく。		
		3.教会訪問レポートの課題を通して、本学の創設者たちが伝えようとしたことを学ぶ		
国語	国語を正確に理解し、適切に表現する力を育成し、伝え合う力を高めると共に、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにし、国語を尊重する態度を育てる。	1.小テストなどを通して、語句の意味・用法を理解し、語彙力を豊かにさせる。		
		2.図書館と連携し、読書に親しみ、進んで表現する態度を育てる。		
		3.古典文法・古文単語・漢文句法を定着させ、古典を読解し鑑賞する能力を養う。		
		4.指導内容・方法・進度などについて、担当者間の打ち合わせを密にする。		
		5.古典芸能に親しみ、朗詠などの表現活動を通して日本文化の継承者としての意識を育てる。		
		6.ICT(電子黒板・タブレット)やAL型授業を効果的に取り入れ、内容理解を深めさせる。		
地歴公民	国際化の進展する現代社会において、より善く生きる態度を養う。また、進路実現のための学力を養う。	1.新聞やニュースなどの情報を通じて、社会の仕組みを分析・考察する能力を養成することを目指す。		
		2.家庭学習(特に復習の充実、宿題の提示・回収、確認テストへの取り組み)の充実による、基礎学力の養成を目指す。		
		3.ICT教材の活用や協働学習の手法を積極的に取り入れ、思考力・判断力・表現力の養成を目指す。		
		4.教員間での情報共有の強化と体系化を意識し、授業進度や授業内容を教員間で検証する。		
数学	数学における基本的な概念や定理・公式の理解を深め、問題を適切に処理する能力を高める。	1.予習の励行を徹底し、1年次の早い段階から家庭学習の習慣をつけさせる。		
		2.教師間の連携を密にし、進捗・内容について確認しあう。		
		3.基礎力の定着確認のため、小テストや節末・章末テストを実施し定着度を確認し、不十分な点は補充演習などを行う。		
		4.問題演習が校外模試につながるよう、計画性を高めて実施する。		
理科	(1)観察・実験などを通して自然を探究する能力と態度を育成する。 (2)自然の事物・現象についての基本的な科学概念の理解を深め、科学的な自然観を育成する。	1.目標を明確にし、解りやすい授業を心がける。		
		2.日常の科学的現象を授業の中にできるだけ取り入れ、理科に関心を持たせる。		
		3.観察や実験を通して、自然現象をみる目を養い、問題解決のための科学的方法や手順を会得させる。		
		4.希望進路を実現するために、小テストや演習をできるだけ多く取り入れ基礎力を定着させる。		
		5.教科会の中に科目ごとの打ち合わせ会を設け、相互研修・連絡の場とする。		
保健体育	心と体の健康を目指し、自主的に健康管理ができる能力を身につける。また各種目ごとに適切な技術を習得する。	1.身体的、精神的健康維持をするために必要なことを認識し活動する。		
		2.個人や集団の中で各種スポーツの技術向上を図る。		
		3.さまざまな活動を通して、基礎体力の向上を図る。		
芸術	(美術)豊かな感受性を養い、絵画の技法を習得して基礎的な能力を身につける。 (音楽)讃美歌を中心とした諸外国の音楽を学ぶことによって、音楽を愛する心情を育むと共に、豊かな感性を育てる。	1.対象物のモチーフに対して、深く観察を繰り返して、基本となるデッサン力を身につけて学習する。		
		2.創る喜び、見る喜びを通して対象物に迫り、生徒の絵画の認識を深める。		
		3.個別指導を通して、生徒に適切なアドバイスをし、新たな発見をして感性を磨く。		
		4.歌唱指導 讃美歌を混声三部又は混声四部合唱の形で歌えるように指導する。		
		5.器楽指導 ヴァイオリンの仕組みを知り、運指を覚え、一人ずつクラスで発表できるように指導する。演奏曲目が増やせるよう指導する。		
英語	英語4技能習得への意識を高めながら、コミュニケーション能力の基礎の育成と、進路実現のための英語力を育成する。	1.1年次は、英単語、英文法の定着を図ると共に、英語で表現された内容を理解できることを目指す。		
		2.2年次は、英語プレゼンテーション等の指導を通して、自分の意見を英語で表現できることを目指す。		
		3.3年次は、演習等を積極的に行い、様々な進路実現のための英語力(CEFR:A2～B1)を身につけることを目指す。		
家庭	衣食住、消費生活、家族・家庭、福祉などに関する基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を解決し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	1.実験・実習を通して、衣食住に関する基礎的な技術を習得させる。		
		2.ワークノート、プリント、基礎縫いの練習、エプロンを提出させる。		
		3.個人の家庭生活における問題点を知り、自立のための課題を考えさせる。		
		4.日常生活から、環境や社会全体の問題への理解を深める。		
情報	コンピュータ活用の基礎的な知識と技術を身につけ、情報と生活との係わり合いや情報モラルを学び、情報手段を主体的に活用する能力を育成する。	1.アプリケーションソフトの基本的操作をできるようにする。		
		2.インターネットを使った実習やプログラミング実習を通して、正しい情報収集能力と問題解決能力を養う。		
		3.情報モラルについて学び、社会の中で情報および情報技術が果たしている役割や影響を理解させる。		

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価	次年度の課題
宗教	<p>年間目標 テーマ『賜物を活かす』</p> <p>○教育目標「個性の伸長と自己実現」の展開</p> <p>○自分を越えた存在に目を向ける</p>	<p>1.礼拝の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形式と内容(メッセージ)の充実を図る。 ・宗教的な次元に眼差しを向けさせる内容の充実に取り組む。 ・生徒の生活に結びつく内容の展開を図る。 <p>2.放送礼拝の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約8分の礼拝時間のなかでの内容の充実も目指す。 ・電子黒板等の活用による礼拝の映像配信の検討 ・担当者の研修ができるように検討する。 <p>3.キリスト教学校としての雰囲気作りに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室に今年度の聖句を記したポスターを掲示する。その他、絵画や教会音楽に触れる機会を計画する。 ・学年礼拝時に讃美歌練習の時間を取り入れる。 <p>4.教職員・保護者のキリスト教教育に関する研修会の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・礼拝の映像配信などを活用し、本校のキリスト教教育、礼拝メッセージを紹介することを目指す。 <p>5.支援の必要な生徒への支援協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談部と連携を図りつつ協力する。 		
教務	<p>(1)学校における教育活動全般を統括し、円滑な運営ができるようにする。</p> <p>(2)教務関係の業務を効率化・省力化できるようにする。</p> <p>(3)日々の教育活動が円滑に行われるように調整する。</p>	<p>1.学校行事が円滑に進められるように各学年、各分掌との調整を図る。</p> <p>2.教務に関する内容(情報)の全職員への共通認識の徹底を図る。</p> <p>3.情報システム部と連携して、出席管理、成績処理、帳簿への記入などの電子化を進め、教務関連業務の効率化を図る。</p> <p>4.年度計画の上に月々の計画を立て、日々の教育活動が円滑にスムーズに行なわれるようにする。</p> <p>5.日々の教育活動(時間割等)の調整をスムーズに行い、授業時間を確保する。</p>		
進路指導	<p>(1)学力の向上と進路実現。</p> <p>(2)ホームルームにおける進路教育の充実。</p> <p>(3)新しい入試に対応できる情報や資料の充実と活用。</p> <p>(4)生徒・保護者に対する進路意識の高揚。</p> <p>(5)中学校に進路情報を提供し、中高一貫生の6年間を見通したキャリア教育の計画づくりに協力する。</p>	<p>1.授業の充実を図り、授業の中で校外実力試験対策にも重点を置いて、学力の向上に努める。</p> <p>2.学習指導部と連携し、授業やHRを通して、毎日の学習習慣の確立を図るようにする。</p> <p>3.実力試験、講習等を十分に活用し、入試に対応できる実力をつける。</p> <p>4.進路学習の年間活動計画(模試・講習・ポートフォリオ作成など)を作り、内容の充実を図る。</p> <p>5.進路資料・あどばいすを作成・配付し、ホームルームで活用してもらい、進路に対する意識づけをする。また、進路適性検査などでキャリア教育につなげるとともに、将来について考える機会を増やす。</p> <p>6.担任にベネッセのFine SystemやHigh School Onlineを活用してもらい、さらにCompassを随時利用できるようにする。</p> <p>7.新テストに対応できる記述力を養成するため、模試の機会を増やし、3年間を見通した小論文指導を模索する。</p> <p>8.生徒に進路室の生徒用パソコンの活用を勧め、インターネット・映像素材の利用により進路情報を得やすくする。</p> <p>9.小論文ハンドブックを図書館部と連携して作成し、生徒が小論文についての理解を深められるように努力する。</p> <p>10.教師に対して、ベネッセ・河合塾・東進等による進路情報を提供し、的確に生徒の進路相談にこたえられるよう協力する。</p> <p>11.各学年と連絡をとりあって、進路講演会を開く。</p> <p>12.就職及び模擬授業ガイダンス(1・2年)・「進路別ガイダンス(先輩の話から進路について学ぼう)」を開催する。</p> <p>13.大学・短大・専門学校・就職・小論文について校内説明会を実施する。(主に3年)</p> <p>14.大学などのオープンキャンパス、学校見学、校外説明会への参加を奨励する。</p> <p>15.依頼があれば中学校での一貫生やその保護者に対する進路説明会等に参加し、6年間を見通した進路設計ができるような適切な情報提供に努める。</p>		

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価	次年度の課題
国際教育	(1)各留学プログラムに参加する生徒を精選し、適切な事前指導を行うとともに、事後指導の徹底に努めることで、留学プログラムへの参加の付加価値を高める。 (2)全校生徒が異なる文化と触れ合い刺激を得る機会を広げるため、積極的に留学生を受け入れたり、国際理解に関する講演会などの諸行事を計画する。 (3)海外大学への進学を目指している生徒に十分な情報を提供し、出願書類作成などを援助する。	1. 国際交流に関するホームページの内容を充実させ、留学(長期・短期)の積極的な派遣につなげたり、外部に対する本校の国際教育活動の理解につなげる。 2. 受入れ事業については、国際交流委員会を頻繁に活動させながら、長期・短期留学生と本校生の交流する機会を増やす。 3. 海外大学への進学に関する情報周知に努める。 4. ホームステイの引受け家庭との事前打ち合わせ・準備を徹底し充実させる。 5. 国際交流委員を積極的に参加させた国際理解講演会の実施を通じて本校生に広く国際理解を深める機会を設ける。 6. キリスト大学の留学生やインターン生と積極的に交流し、高大連携の活性化を図る。		
学習指導	特進クラス・大進・SGクラス、特進SAクラス、特進Aクラスそれぞれの進路実現のための働き掛けをし、日々の学習で学力を蓄積させ進路の実現に向けて歩ませる。 → 学校全体の進学実績向上	1. 生徒のデータを追跡・点検・蓄積していく。 2. 学習室利用を勧める。全クラスに毎月、学習室案内・監督表を配付する。 3. 「家庭学習の記録」の活用を通じて学習習慣の確立を図る。 4. シラバスの有効活用について、各教科など関係部署との連携し、その活用法を研究し実践していく。□ 5. 図書館部との連携により、受験に直結する前段階における学習への動機付けとそれを持続させる指導法を探る。 6. 各教科の到達状況や試験結果についての検討・点検をする。		
生徒指導	(1)一人ひとりの自主性自律性を育てて、高校生活の充実と人格の育成に努める。 (2)本校教育理念の実現にむけて払われる全教職員の取り組みに協力し、その効果的達成のため側面から援助する。	1. 挨拶・正しい言葉遣い・時間厳守など、礼儀と基本的な生活習慣を身につけさせ、健康的で明るい爽やかな学校の雰囲気づくりに努める。 2. 学年・学級担任などと連携することにより、生徒の問題行動に対し事前・事後に渡って効果的に対処する。 3. 生徒心得に基づいた高校生らしい端正な容姿を守らせる。 4. 携帯電話・スマートフォンのフィルタリングサービス利用を徹底し、インターネットを使用した事故・事件に対する防止および解決に努める。 5. 盗難防止に努める。 6. いじめに対する対応策を確立し、防止および解決に努める。 7. 中高一貫の生徒指導体制を整える。 8. 学校をとりまく地域社会や多くの人々と協力して活動する。		
特活指導	望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図り、集団や社会の一員としてより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方・生き方についての自覚を深め、自己を生かす努力を養う。	1. 生徒総会・コーラスコンクール・学園祭・クラスマッチなど生徒会主催の諸行事の充実。 2. 本校にふさわしい生徒会・委員会・クラブ活動の検討と充実。 3. ホームルーム活動への支援、協力 4. 前年度の総括を受けて ア. 中高での委員会の活動内容の協力・連携を進める。 イ. 中高での部活動の交流と活動協力を図る。		
教育相談	(1)生徒の成長を支援出来るように、教育相談に関する知識・技術の習得に努める。 (2)担任のクラス経営を側面から支援する。 (3)悩みや問題を持つ生徒が学校生活に適応出来るよう援助する。	1. 教育相談係としての力量をつけるために自己研修に各自力を入れる。 2. 生徒が安心して高校生活を送れるよう、諸企画(ワイド相談など)を実施し、明るく楽しい学校の雰囲気作りに努める。 3. 悩みを持つ生徒が早期に相談できるよう、生徒への広報の充実を図り、諸企画(ワイド相談)を実施する。また、保健室等を利用した個別相談体制の充実を図る。必要に応じて対象生徒を教育相談委員会に申し送る。		
保健美化	(1)心身共に健康な生徒を育成する。 (2)校舎内外の環境美化及び整備の推進を図る。	1. 心身の健康を育み、安全を確保することのできる生徒の育成を図る。 2. 授業時間と休み時間とのけじめをつけた保健室利用を徹底する。 3. 生徒自ら美化に努め、毎日の清掃活動を通して環境整備を行う。		

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価	次年度の課題
図書館	(1)生徒や教職員が足繁く訪れる、魅力ある図書館 (2)利用しやすい学習・情報センター (3)各教科・分掌との連携による充実した図書館活動	1.蔵書構成の適正化を図り、生徒の学習・読書活動に資する蔵書の充実に努める。		
		2.諸行事・諸展示企画の充実に努め、生徒の読書に対する興味と意欲を喚起する。		
		3.図書館からの諸案内により図書館情報の普及に努め、図書館への関心を高める。		
		4.ブックリストの活用等により教科・分掌と協力して図書館利用を促す。		
		5.図書委員会活動の活性化を通して生徒の図書館利用を推進する。		
渉外	(1)PTA会員の意識の向上を図る。 (2)PTA活動の具体的実践に取り組む。 (3)役員・理事との連絡を密にとり、円滑な運営を心がける。 (4)学校経営・学級経営を円滑にするために、教職員のPTA活動に対する理解を深める。 (5)保護者の個人情報管理の強化。	1.本部PTAと支部PTA(日立・いわき支部、水戸支部)学年PTA(専門委員会)の役割分担を明確にし、それぞれの活動を充実させる。		
		2.年1回の支部PTA研修会を実施する。また、学園祭で喫茶室の出店を行う。(日立・いわき支部、水戸支部)		
		3.PTA会報「シオンの丘」を編集・発行(年間2回)し、本校の教育活動やPTA活動を魅力的に広報する。また、広報活動を通じて、PTA活動の充実に努める。(広報委員会) *教職員紹介号は教員担当とする。		
		4.大学見学会を6月と7月に実施する。(6月は外部の大学見学)(7月は茨城キリスト教大学見学)(大学見学委員会)		
		5.講演会や音楽会などの全体研修会の企画・立案を行う。6月の開催に向けてチラシ作製や広報活動に積極的に取り組み、多数の来場者を迎える研修会を目指す。(全体研修委員会)		
		6.生徒の健全育成のため、各地域のお祭りの巡回、列車添乗指導、さわやかマナーアップキャンペーンを実施し、地域の生活環境の浄化に努力する。(生徒指導委員会)		
情報システム	(1)HPの充実。 (2)授業でのIT活用の推進。	1.HPでの学校行事等の更新の迅速化。		
		2.HP上で提供する情報の拡充。		
		3.情報教室の生徒用PCの適切な管理。		
入試広報	本校の教育内容を受験生とその保護者、中学校や塾関係者に正確に伝わる広報活動を行い、男女問わず多数の志願者を得て、入学者が増えるように努める。	1.PR効果のある学校案内パンフレット・ポスターを作成し、活動域内のすべての受験生に届けられるよう努力する。		
		2.校外で行われる入試説明会や進学フェアに参加する。		
		3.学校見学会・入試問題説明会や学園祭での進学相談コーナーの内容を充実させ、多くの受験生とその保護者に参加してもらえるようにする。		
		4.情報システム部と協力しホームページの充実に努め、ネットで本校の魅力を発信する。		
		5.生徒募集に関わることについて、教職員全員が共通認識を持てるように学内広報に努める。		

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価	次年度の課題
第1学年	「自主・自律」	1. 生活目標 ① 基本的な生活習慣の確立(挨拶、言葉遣い、校則・時間の厳守) ② 共生の意識を高め、思いやりをもって行動する。 ③ 学校行事や部活動へ積極的に参加し、気力・体力を養成する。 2. 学習目標 ① 主体的に学習に取り組み、論理的思考力を育成する。 ② 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考え広め深める。 ③ 問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程を実現する。 3. 進路目標 ① 将来を見据えて、本気で自分の「夢」について考える。 ② 自分の適性と照らし合わせて適切な文理選択をする。 ③ 積極的な進路選択をするために、試験に対して十分な準備をする。		
第2学年	「人から必要とされる人材の育成」	1. 自分の言動に責任を持たせ、相手の気持ちを考えられるようにさせる。 ① 礼拝を通して真理を追究し、与えられた賜物について学び、それを生活や進路に反映させる。 ② 社会出てから通用するような礼儀、挨拶、言葉遣いを身につけさせる。 ③ 身嗜みに留意させ、生徒心得に違反するような容姿や態度をとらせないようにする。 ④ iPadを活用させ、提出期限の徹底と未提出者がいないようにする。 ⑤ 所持品の管理を徹底させる。 ⑥ 自分達の生活環境を整えることの大切さを理解させ積極的に清掃させる。清掃を通して奉仕の心や社会貢献の素地を作る。 ⑦ 時間を守らせることを徹底することにより、自分でスケジュール管理をすることや時間の大切さを学ばせる。 ⑧ それぞれの個性を認め合い、思いやりを持って接することができる豊かな人間性を養う。 2. 将来の進路を見据え、前向きに授業や課題に取り組ませる。また、ICT機器を活用し、新テストにも対応できる実力をつける。 ① 心身ともに健康に留意させ、生活のリズムを整えさせる。それにより、授業や課題に前向きに取り組める環境整備に努める。 ② 学ぶことの目的や将来の目標について考えさせ、自ら学ぶ姿勢を養う。 ③ 計画学習や目標設定をさせ、成績上位者を発表することで、学習意欲の向上に繋げていく。 ④ 知識の定着の為に、iPadを活用するなど学習効率を上げ、新テストにも対応できる実力をつける。 ⑤ 効果的な課題を与え、提出期限を厳守させることにより学習の習慣化に繋げる。 ⑥ チャイム始業を徹底することで、真摯に授業に取り組む環境を作る。 ⑦ 基礎講習やハイレベル講習を充実させ、習熟度に応じた学力の向上を図る。 ⑧ 国際社会に対応できる力をつけさせるために、特に英語力の向上に重点をおく。 3. 行事や部活動に積極的に参加させ、個々の能力を伸ばすとともに社会性を身につけさせる。 ① 行事は全員で協力して参加し、得手不得手に関係なく一生懸命に取り組ませる。 ② 部活動を通して、個々の能力を伸ばすとともに社会性を身につけさせる。 ③ <一貫部> 国外研修旅行を通して、心豊かで実力のある自立した国際人を育てる。 <高入部> 修学旅行を通して、平和と日本に歴史や伝統文化について考えさせる。 ④ 学級委員や常任委員などの生徒会活動を通して、人のために貢献できることの喜びを知り、社会貢献への素地を作らせる。		

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価	次年度の課題
第3学年	「自己と向き合う 今と向き合う」	1.生活目標 『基本的生活習慣・社会規範の確立』		
		①ルールを守ることの意味を理解、認識する。		
		②自身の言動に対する責任を認識する(思いやり、気配りの心)。		
		③「今、すべきこと」にきちんと取り組む。		
		④指示待ち・受け身は「厳禁」。		
		⑤学習のみならず、常に目的・到達目標を明確にして物事に取り組む。		
		⑥規則正しい食生活を心がける。		
		2.学習指導目標		
		①予習・復習を徹底し、授業を大切にす。		
		②学習時間の確保と学力の定着(計画的・自主的な学習習慣を身につける)		
		③読書に親しむ。(図書館の利用)		
		3.進路指導目標		
		①自分の進路についてより良い選択をする。		
		②進路の実現を目指し、自ら学習に取り組む姿勢を養う。		
		③社会に関心を持つ。		